法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-12-22

多面的嫉妬尺度の作成とデートバイオレンス・ハラスメントとの関連 : 改訂版デートバイオレンス・ハラスメント尺度の作成と分析(4)

OCHI, Keita / 甲斐, 恵利奈 / KIIRE, Satoru / 喜入, 暁 / KAI, Erina / 越智, 啓太

(出版者 / Publisher)
法政大学文学部
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
法政大学文学部紀要 / Bulletin of the Faculty of Letters, Hosei University
(巻 / Volume)
74
(開始ページ / Start Page)
119
(終了ページ / End Page)
127
(発行年 / Year)
2017-03-30
(URL)
https://doi.org/10.15002/00013653

多面的嫉妬尺度の作成と デートバイオレンス・ハラスメントとの関連

── 改訂版デートバイオレンス・ハラスメント尺度の作成と分析(4) ──

越智　啓太・喜入　　暁・甲斐恵利奈

要　旨

本研究では，恋愛関係における二者関係において，一方の嫉妬が相手側からのデートバイオレンス・ハラスメント被害を増加させるかどうかについて検討した。異性と交際中の 600 名のデータをもとに尺度を行い多面的嫉妬尺度日本語版を作成した。この尺度は，嫉妬認知，嫉妬感情の 2 つの因子から構成されていた。これらの因子の特性を明らかにしたあと，多面的嫉妬尺度とデートバイオレンス・ハラスメント尺度との相関を分析した。その結果，嫉妬認知がデートバイオレンス・ハラスメント被害を増加させるということがわかった。

1. 問　題

交際中のカップル間における暴力行為，ハラスメント行為は，デートバイオレンス（dating violence），あるいはデートハラスメント（dating harassment）と呼ばれる。デートバイオレンスの問題は，恋愛という人生における幸福なイベントを苦悩に満ちた不幸なものにしてしまったり，人間不信や恋愛に対する恐怖や拒否の態度を作り出したり，また，場合によっては傷害事件や殺人事件などに発展するなど，非常に深刻な問題になっている。実際，全国の配偶者暴力相談センターや女性センター，あるいは大学における学生相談室，精神科クリニックなどにおいてもこれらの問題が持ち込まれることが少なくない。そのため，これらの行為の現状を把握し，その発生を予測したり，対処したり，予防したりすることが必要である。しかしながら，デートバイオレンスの実態についてはいまだ十分な実証研究が不足しており，明らかになっていないことが多い。

そこで，我々は，デートバイオレンス，ハラスメントの程度を測定する尺度を作成し（越智・長沼・甲斐，2014; 越智・喜入・甲斐・佐山・長沼，2015a, 2016），被害者や加害者の属性との関連やカップル間の交際パターンとの関連などについて分析を加えてきた。その結果，男性も女性と同様にデートバイオレンス・ハラスメントの被害に遭っていることや，自分が加害行為をしていることを過小に評価しがちであること，加害者の女性蔑視傾向や権威主義，未熟性，不安傾向，自己愛傾向などのパーソナリティ特性や，恋愛における結晶化傾向，ひとめぼれ傾向，恋愛マキシマイザー傾向，侵入思考などの恋愛パターンの個人差がこれらと関連していることが示された（越智ら，2014, 2015, 2016）。

本研究では，被害者の嫉妬傾向とデートバイオレンス，デートハラスメント被害の関連について検討してみることにしたい。恋愛における嫉妬とは，相手が自分以外の異性と親しくしていることに対するネガティブな認知や感情，行動を指す概念である。

デートバイオレンス・ハラスメントのうち，たとえば，相手を支配したり監視したりする傾向や，ストーキング行動は加害者の嫉妬傾向と密接に関連しているのは明らかである。一方で，われわれの今までの研究においては，被害者側の認知や感情が加害行動を誘発するという可能性も重ねて示されている（越智ら，2014, 2015, 2016）。デートバイオレンス・ハラスメントは，加害者の属性や性格，特性のみによって生じるものではなく，加害者被害者のインタラクションのなかから生じるものと考えられるのである。このように考えると，被害者側の嫉妬の大きさがデートバイオレンス・ハラスメントの被害可能性を増大させるという事も十分考えられる。

ただし，現在のところ，我が国では嫉妬を測定するための尺度は数少ない。そこで，本研究では，まず，この尺度を構成し，嫉妬の特性について明らかにしたうえで，上記の問題について検討してみることにする。

2. 方　法

調査参加者：あらかじめ調査会社のデーターベースに登録されている調査協力候補者の中から，現在異性と交際している，全国の18歳〜39歳までの未婚の男女600名（男性300名，女性300名）を調査対象としてウェブ調査を行った。交際の定義としては，「つきあっている（交際している）とは，一回以上ふたりきりでデートをしたことがあるということで，告白や正式な交際宣言などをしたりしている必要はない。他の人と平行して交際しているか否かは問わない」とした。

調査対象者の，平均年齢は，28.92歳（標準偏差5.82），男性29.75歳（標準偏差5.92），女性28.10歳（標準偏差5.60）である。日本全国のすべての県に1名以上の対象者が存在する。学歴カテゴリーは，高卒以下（大学在学中含む）144人，短大・専門学校卒90人，大卒以上359人，無回答7名であった。なお，調査は㈱クロス・マーケティングに委託して行った。回答にはおおむね5〜15分程度を要した。参加者はこの調査に回答することでのちに商品などと交換することが出来る一定のポイントを得ることが出来た。

実施した質問紙の内容：

多面的嫉妬尺度：嫉妬を測定する尺度はいくつかつくられている（Buunk, 1997; Elphinston, Freeney & Noller, 2011）が，現在最もよく使用されている尺度として，Pfeiffer & Wong（1989）による多面的嫉妬尺度（Multidimentional Jealousy Scale）がある。この尺度は，嫉妬を，認知，感情，行動の3つの因子から測定するものである。本研究でも，この尺度を翻訳して使用することにする。本尺度は，本邦でも神野（2013）によって日本版が作られているが，今回の研究を行った時点では，神野の尺度が入手できなかったので，オリジナルの尺度を独自に翻訳して使用することにした。今回は，オリジナル尺度の3つの因子のうち，認知と感情の2つの因子合計16項目を使用することにした（その後，神野は，Pfeiffer & Wong（1989）の尺度を元にしたオリジナル尺度を神野（2016）として発表している）。

交際進展度尺度：本研究では，嫉妬が交際進展に伴ってどのように変化していくかについて分析するため，交際進展を測定するための尺度を使用した。交際進展を測定する尺度はいくつか提案されているものの（松井，1990, 1993, 赤澤，2006），その多くは性的な関係の進展が項目に含まれており，高度にプライベートな質問となっていた。そこで，越智（2014）は，性的な質問を含まない12項目の交際進展の尺度を作成した。この尺度では，「ふたりきりでデートをする」，「ふたりきりでお酒を飲みに行く」から，「婚約している」までの12段階の恋愛行動の指標をあげ，それらをどの程度経験しているのかを進展度と定義している。また，本研究では，これに加えカップル関係において自らの優位性，劣位性を評定させる5段階の質問とデートや会合頻度を「毎日」から「3ヶ月に一日以下」まで8段階で評定させる質問も用い

た。

愛情友情尺度：本研究では，嫉妬と愛情，友情との関連について分析した。二者関係における，愛情（love）と好意（like）の関連については，Rubin（1973）による尺度が有名であり，よく使用されている。越智（2015），越智ら（2014）は，この尺度における好意には，尊敬の要素と友情の要素が混在していることを指摘し，独自に愛情，友情，尊敬尺度を構成した。愛情尺度は「○○さんを独り占めしたいと思う」，「○○さんと一緒にいられなければ，私はひどく寂しくなる」などの項目から構成され，友情尺度は「○○さんと遊びに行くのは楽しい」，「○○さんから信頼されるととてもうれしく思う」などの項目から構成されている。本研究ではこの愛情，友情尺度を実施した。

社会的剥奪傾向尺度：社会に対して，自分は十分正当に処遇されていない，まわりの人間はみな自分よりも頭が悪いなどと感じる認知を社会的剥奪感という。交際相手がこのような認知的な傾向を持っていることは，デートバイオレンスやハラスメントをある程度予測する（越智ら，2015b, 2016）。そこで本研究では越智ら（2014）の，社会的剥奪尺度を用いてこの傾向を測定した。これは「彼（彼女）は成功した人についての話が嫌いである」，「彼（彼女）は世の中は不公平で自分は損をしていると思っている」など7項目からなる尺度であり，他者評定（おもに交際相手を念頭に置いている）によってある人物がどの程度，このような傾向を持っているのかを評定させるものである。

DTDD-J 尺度：DTDD-J 尺度は，いわゆるダークトライアド，つまり，サイコパス傾向，マキャベリアリズム，ナルシシズムについて測定する尺度であり，Jonason & Webster（2010）によって開発された尺度である。この尺度は，田村・小塩・田中・増井・ジョナソン（2015）によって日本語版が開発されている。尺度は12項目からなり，4項目ずつ，サイコパス傾向，マキャベリアリズム，ナルシシズムについて測定する。サイコパス傾向を測定する項目としては，「わたしはどちらかというと冷淡で人の気持ちを気にしない」，マキャベリアリズムを測定する項目としては「わたしは他人を操っても自分の思い通りにするところがある。」，ナルシシズムを測定する項目としては「わたしは他人から立派な人物だと思われたいほうだ」がある。これらの傾向も，デートバイオレンス，ハラスメントと関連することが予測される。そこで本研究でもこの尺度を実施した。この尺度は本来自己評価式のものであるが，本研究では，この尺度を，他者評価式の記述に変更して尺度を実施した。具体的には，「私は～である」というオリジナルの尺度を「彼（彼女）は～である」という形になおして，評定させた。

改訂版デートバイオレンス・ハラスメント被害尺度：デートバイオレンス・ハラスメントを，身体的暴力，間接的暴力，支配・監視，言語的暴力，性的暴力，経済的暴力，つきまとい・ストーキングの7つの下位尺度から測定する改訂版デートバイオレンス・ハラスメント被害尺度（越智・喜入・甲斐・佐山・長沼，2015）を実施した。これは，それぞれの行為の被害の程度について「まったくない」「ほとんどない」「たまにある」「ときどきある」「よくある」の5段階で評定させるものである。オリジナルの尺度では，下位尺度はそれぞれ5問から構成されているが，今回の調査では，つきまとい・ストーキングについては7つの項目を追加した14項目の調査を行った。これは，このハラスメント行為についてより詳細に分析したいと考えたためである。

結　果

多面的嫉妬尺度の構成

嫉妬尺度の結果について，重み付けのない最小二乗法で因子分析を行い，プロマックス回転を行った。先行研究通りの2つの因子が抽出された。第1因子は，「私は○○が他の異性に気があるのではないかと疑うことがある」（○○には交際相手の

名前をいれる）など8項目からなる「嫉妬認知」尺度で $\alpha = 0.947$ であった。第2因子は「○○が他の異性を魅力的だといったらいらいらするだろう」など8項目からなる「嫉妬感情」因子で $\alpha = 0.932$ であった。因子間相関は，$r = 0.472$ であった。パターン行列をTable 1に示した。これらの因子構造は，Pfeiffer & Wong（1989）の想定した因子と同様であった。念のため，彼らの想定した因子構造に従って，ロバスト最尤法で確証的因子分析を行った。結果をTable 2に示す。適合度は，$\chi^2(103) = 1318.79$，$p < .001$；CFI = .759；RMSEA = .140［90% CI = .134, .147］；SRMR = .111となり，それほど高くはなかった。因子間相関は，$r = 0.56$ であった。

Table 1　多面的嫉妬尺度の因子分析結果パターン行列

	嫉妬認知	嫉妬感情
私は○○が他の異性に気があるんじゃないかと疑うことがある	**0.859**	−0.085
私は○○が他の異性の目を引くのではないかと心配している	**0.754**	0.114
私は○○が他の異性からもてているのではないかと気になることがある	**0.676**	0.191
私は○○が私の目の届かないところで他の異性といちゃいちゃしているんじゃないかと疑うことがある	**0.954**	−0.136
私は○○が他の異性から恋愛感情を抱かれているのではないかと思っている	**0.743**	0.097
私は○○が他の異性から口説かれる（告白される）のではないかと心配している	**0.813**	0.071
○○は私の知らないところで他の異性と親密になっているかもしれないと思っている	**0.926**	−0.159
私は○○が他の異性に夢中になっているんじゃないかと疑うことがある	**0.941**	−0.202
○○が他の異性が魅力的だといったらいらいらするだろう	0.362	**0.512**
○○が他の異性と話したいと思っているのを知ったら腹が立つだろう	0.416	**0.511**
○○が他の異性に親密そうにほほ笑みかけるのを見たらいらいらするだろう	0.378	**0.593**
他の異性が○○のそばでいつもなれなれしくしていると腹が立つだろう	0.162	**0.753**
○○が他の異性といちゃついているのを知ったら腹が立つだろう	−0.083	**0.928**
○○が他の異性とデートしたとするといらいらするだろう	−0.242	**0.979**
○○が他の異性と抱き合ってキスをしたら腹が立つであろう	−0.280	**0.915**
○○が学校や職場で他の異性ととても親密に作業をしていたらいらいらするだろう	0.114	**0.734**

Table 2　多面的嫉妬尺度の確証的因子分析結果

	嫉妬認知	嫉妬感情
私は○○が他の異性に気があるんじゃないかと疑うことがある	.839	
私は○○が他の異性の目を引くのではないかと心配している	.805	
私は○○が他の異性からもてているのではないかと気になることがある	.766	
私は○○が私の目の届かないところで他の異性といちゃいちゃしているんじゃないかと疑うことがある	.897	
私は○○が他の異性から恋愛感情を抱かれているのではないかと思っている	.789	
私は○○が他の異性から口説かれる（告白される）のではないかと心配している	.838	
○○は私の知らないところで他の異性と親密になっているかもしれないと思っている	.859	
私は○○が他の異性に夢中になっているんじゃないかと疑うことがある	.846	
○○が他の異性が魅力的だといったらいらいらするだろう		.779
○○が他の異性と話したいと思っているのを知ったら腹が立つだろう		.807
○○が他の異性に親密そうにほほ笑みかけるのを見たらいらいらするだろう		.863
他の異性が○○のそばでいつもなれなれしくしていると腹が立つだろう		.868
○○が他の異性といちゃついているのを知ったら腹が立つだろう		.821
○○が他の異性とデートしたとするといらいらするだろう		.741
○○が他の異性と抱き合ってキスをしたら腹が立つであろう		.659
○○が学校や職場で他の異性ととても親密に作業をしていたらいらいらするだろう		.800

Table 3　年齢と性別ごとの嫉妬尺度得点

嫉妬認知				
	10 代	20 代	30 代	平　均
男　性	28.86	28.01	27.63	27.85（10.48）
女　性	22.58	24.73	26.83	25.48（10.79）
平　均	26.07（11.23）	26.13（10.51）	27.29（10.83）	26.67（10.69）
嫉妬感情				
	10 代	20 代	30 代	平　均
男　性	37.67	31.92	32.81	32.67（10.58）
女　性	29.92	36.12	37.60	36.46（11.40）
平　均	34.22（ 9.70）	34.32（11.46）	34.86（10.98）	34.57（11.15）

（　）内は標準偏差

Table 4　被害者の学歴カテゴリー別嫉妬尺度得点

	高卒以下	専門・短大	大卒以上
嫉妬認知	25.92（11.37）	27.90（11.18）	26.69（10.25）
嫉妬感情	35.88（11.05）	35.61（10.42）	33.98（11.24）

（　）内は標準偏差

Table 5　多面的嫉妬尺度と交際進展度の相関

	男　性	女　性	合　計
嫉妬認知	−.046 *n.s.*	−.216 **	−.149 **
嫉妬感情	.209 **	.204 **	.230 **

** $p < .01$

多面的嫉妬尺度と性別，年齢，学歴との関連

多面的嫉妬尺度のそれぞれの下位尺度ごとの性別，年代別の平均点を Table 3, 4 に示した。二元配置の分散分析の結果，嫉妬認知については，性別の主効果（$F(1,594) = 5.32, p < .05$），年代の主効果（$F(2,594) = 0.589$, *n.s.*），性差と年代の交互作用（$F(2,594) = 1.44$, *n.s.*）となり，男性のほうが得点が高い傾向にあることがわかった。

嫉妬感情については，性別の主効果（$F(1,594) = .072$, *n.s.*），年代の主効果（$F(2,594) = 0.893$, *n.s.*），性差と年代の交互作用（$F(2,594) = 4.02, p < .01$）となり，交互作用のみが有意となった。これは，男性の嫉妬感情が 10 代から 20 代にかけて急激に低下するのに対し，女性はこの年代で急激に上昇することによって生じていた。

また，学歴カテゴリーごとの嫉妬尺度得点では，学歴カテゴリーの主効果が見られなかった（嫉妬認知 $F(2,590) = 0.949$, *n.s.*; 嫉妬感情 $F(2,590) = 1.872$, *n.s.*）。

多面的嫉妬尺度と交際進展度の関連

本研究においては，進展度の平均は，男性が 4.14 (3.24)，女性が 5.24 (3.11) であり，本研究のサンプルでは女性のほうが有意に進展度は大きかった（$F(1,598) = 18.02, p < .01$）。進展度と嫉妬認知の相関は Table 5 のようになった。値自体は小さいものの，関係が進展するに従って嫉妬認知は減少し，嫉妬感情は増加することがわかった。また，カップルの力関係について「自分のほうが優位（1）」から「私のほうが劣位（5）」まで 5 段階で評定させたものとの相関を見たところ，嫉妬認知に関しては，$r = 0.154, p < .01$，嫉妬感情については $r = 0.11$, *n.s.* となった。つまり，自分のほうが関係において劣位に感じ，相手が主導権を持っている場合にやや嫉妬認知が大きくなる傾向にあった。なお，多面的嫉妬感情尺度とデート頻度との間には有意な相関はみられなかった（嫉妬認知について，$r = -0.15$，嫉妬感情について $r = -0.44$）。

多面的嫉妬尺度と幸福度との関連

本研究では，幸福度について，人生の幸福度，交際における幸福度，交際相手の幸福度の推定をいずれも 7 段階で評定させていた。この値と嫉妬認知，嫉妬感情との相関を算出した。結果を Table 6 に示す。無相関検定の結果，いくつかのものに

Table 6　多面的嫉妬尺度と幸福度評定との相関

	人生幸福度	恋愛幸福度	交際相手の幸福度推定
嫉妬認知	−.119 **	−.088 *	−.107 **
嫉妬感情	.059 *n.s.*	.175 **	.179 **

** $p < .01$　* $p < .05$

Table 7　多面的嫉妬尺度と交際相手への愛情と友情尺度との相関

	愛　情	友　情
嫉妬認知	.244 **	.036 *n.s.*
嫉妬感情	.325 **	.365 **

** $p < .01$

Table 8　デートバイオレンス・ハラスメントと DTDD–J 尺度の相関

	マキャベリアリズム	サイコパシー	ナルシシズム	合　計
身体的暴力	.340 **	.329 **	.249 **	.329 **
間接的暴力	.296 **	.288 **	.207 **	.283 **
支配監視	.299 **	.275 **	.296 **	.313 **
言語的暴力	.389 **	.356 **	.328 **	.386 **
性的暴力	.300 **	.278 **	.231 **	.291 **
経済的暴力	.342 **	.298 **	.264 **	.325 **
つきまとい	.306 **	.278 **	.219 **	.288 **

** $p < .01$

ついては有意な相関は見られたが，いずれも値は小さなものであった。嫉妬認知，感情と幸福度には明確な関係は見られないということになる。

多面的嫉妬尺度と愛情・友情尺度との関連

多面的嫉妬尺度を構成する二つの因子と愛情尺度と友情尺度と相関を Table 7 に示す。愛情については，嫉妬認知，嫉妬感情ともに有意な相関を示した。つまり，愛情が深いほど，嫉妬が大きいことがわかった。これに対して友情は嫉妬感情については高い相関を示したが，嫉妬認知との相関は有意ではなかった。

多面的嫉妬傾向と社会的剥奪傾向との関連

多面的嫉妬傾向尺度の 2 つの下位尺度と，社会的剥奪傾向との相関を算出したところ，嫉妬認知に関しては，$r = .389$, $p < .01$, 嫉妬感情に関しては，$r = .109$, $p < .01$ となった。これは，つまり，交際相手の社会的剥奪傾向が自らの嫉妬，とくに嫉妬認知を引き起こす，あるいは自らの嫉妬が相手の社会的剥奪傾向を引き起こすということを示している。

多面的嫉妬傾向と DTDDJ 尺度との関連

まず最初に，他者評価版の DTDD–J 尺度とデートバイオレンス・ハラスメントとの間に関連があるかについて，相関を算出した。結果を Table 8 に示す。予想通り，これらの間には中程度の相関が見られた。すべての種類のバイオレンス・ハラスメントでマキャベリアリズムとの相関が最も高かった。次に，DTDD–J 尺度と多面的嫉妬尺度の相関を Table 9 に示した。いずれの尺度も嫉妬認知とは，高い相関が見られたが，嫉妬感情については有意であるもののそれほど大きな相関は見られなかった。これは，相手のダークトライアド傾向が自らの嫉妬認知を引き起こす，あるいは自らの嫉妬認知が相手のダークトライアド的な行動を引き起こすということを示している。ただし，ダークトライアド的な行動は，二者関係のみで生じるものではないもっと特性的なものだと考えら

Table 9　多面的嫉妬尺度と DTDD–J 尺度の相関

	嫉妬認知	嫉妬感情
マキャベリアリズム	.478 **	.102 *
サイコパシー	.409 **	.117 **
ナルシシズム	.406 **	.164 **
DTDD–J 合計	.465 **	.138 **

** $p < .01$　* $p < .05$

れるので，可能性としては前者の可能性が高いであろう。

多面的嫉妬尺度とデートバイオレンス・ハラスメント尺度の関連

この尺度とそれぞれのデートバイオレンス・ハラスメント尺度の相関を以下に示す。嫉妬認知尺度の得点は，いずれの種類のデートバイオレンス・ハラスメントとも高い相関を示していた。これに対して嫉妬感情についてはそれほど明確な関連は見られなかった。これは，被害者側の嫉妬認知や嫉妬感情，とくに認知が被害化リスクを増加させることを示している。

Table 10　嫉妬尺度と被害化の相関

	嫉妬認知	嫉妬感情
身体的暴力	.251 **	.035 *n.s.*
間接的暴力	.196 **	.071 *n.s.*
支配監視	.255 **	.107 *
言語的暴力	.328 **	.167 **
性的暴力	.207 **	.096 *
経済的暴力	.291 **	.122 **
つきまとい	.260 **	.035 *n.s.*

** $p < .01$　* $p < .05$

考　察

本研究では，多面的嫉妬尺度の日本版を作成し，その尺度の特性を明らかにするとともに，デートバイオレンス・ハラスメントとの関連について，明らかにすることを目標として調査が行われた。本研究では，Pfeiffer & Wong（1989）の多面的嫉妬尺度の嫉妬認知と嫉妬感情の 2 因子について調査を行ったが，原尺度と同様の因子構造が抽出された，ただし，確証的因子分析の結果，モデルの適合度はそれほど高くなかった。しかし，既成の尺度との関連性の検討においては，従来の研究結果と矛盾しない結果が得られたことからこの尺度には一定の妥当性があると考えられる。つぎに，デートバイオレンス・ハラスメントとの関連であるが，興味深いことに，被害者側の嫉妬傾向が大きいほど，これらの被害を受ける可能性も大きいことが示された。この傾向はとくに嫉妬認知で顕著であった。この結果は，デートバイオレンス・ハラスメントが単に加害者側のパーソナリティや認知，セルフコントロール能力などの問題だけによって生じるものではなく，被害者との関連性の中で，拡大したり，増加したりしてしまう可能性を示している。

ただし，本研究結果については，次のように解釈できることも理解しておく必要がある。まず，第 1 は，本研究の結果は，被害者の嫉妬が被害化を促進しているということを示しているわけではなく，加害者のバイオレンス・ハラスメント行動が，被害者の嫉妬行動を引き起こしている，つまり因果関係が逆である可能性があるという事である。本研究は一時点での調査であるため，この点については検討できない。今後の研究していくべき課題といえるであろう。第 2 の可能性は，実際に加害者が行っている（あるいは行っていない）行動に対して，それを「バイオレンス」あるいは「ハラスメント」と捉えると否かという点が，もっぱら，被害者の側の嫉妬認知に依存しているという可能性である。つまり，実際にはバイオレンス・ハラスメントといえない行動が行われた場合でも，被害者の嫉妬認知傾向が大きい場合，それをバイオレンス・ハラスメントと捉えてしまいやすくなるという可能性である。本研究では，被害者側からのみの調査が行われており，バイオレンス・ハラスメントについての客観的なデータはとられていない。そのため，本研究の結果が単に被害者の認知の歪みとそれによる加害者の行動の過剰解釈によって生じてしまっている可能性がある。これらの点についても引き続き研究が必要であろう。

本研究は，科学研究費補助金（基盤研究 C）の助成を受けて行われた。

参考文献

赤澤淳子.（2006）．青年期後期における恋愛行動の規定因について：関係進展度，恋愛意識，性別役割の自己認知が恋愛行動の遂行度に及ぼす影響．仁愛大学研究紀要，5, 17–31.

Buunk, B. P. (1997). Personality, birth order and attachment styles as related to various types of jealousy. *Personality and Individual Differences,* 23(6), 997-1006.

Elphinston, R. A., Feeney, J. A., & Noller, P. (2011). Measuring romantic jealousy: Validation of the Multidimensional Jealousy Scale in Australian samples. *Australian Journal of Psychology,* 63(4), 243-251.

Jonason, P. K., & Webster, G. D. (2010). The dirty dozen: a concise measure of the dark triad. *Psychological assessment,* 22(2), 420-432.

神野雄（2013）．新たな多次元嫉妬尺度の作成．日本社会心理学会第 53 回大会発表論文集，260.

神野雄（2015）．嫉妬研究の概観と展望．神戸大学発達・臨床心理学研究，14, 18-28.

神野雄（2016）．多次元恋愛関係嫉妬尺度の作成と信頼性・妥当性の検討．パーソナリティ研究，25, 86-88.

松井豊.（1990）．青年の恋愛行動の構造［含 コメント（大坊郁夫）］(愛〈特集〉)．心理学評論，33(3), 355-372.

松井豊.（1993）．恋愛行動の段階と恋愛意識．心理学研究，64(5)，335-342.

越智啓太（2014）．ケースで学ぶ犯罪心理学．北大路書房

越智啓太（2015）．恋愛の科学．実務教育出版

越智啓太，長沼里美，甲斐恵利奈.（2014）．大学生に対するデートバイオレンス・ハラスメント尺度の作成．法政大学文学部紀要，69, 63-74.

越智啓太，喜入暁，甲斐恵利奈，長沼里美（2015a）．女性蔑視的態度がデートハラスメントに及ぼす効果．法政大学文学部紀要，70, 101-110.

越智啓太，喜入暁，甲斐恵利奈，佐山七生，長沼里美（2015b）．改訂版デートバイオレンス・ハラスメント尺度の作成と分析(1) ── 被害に焦点を当てた分析 ──．法政大学文学部紀要，71, 135-147.

越智啓太，喜入暁，甲斐恵利奈，佐山七生，長沼里美（2016a）．改訂版デートバイオレンス・ハラスメント尺度の作成と分析(2) ── 加害に焦点を当てた分析 ──．法政大学文学部紀要，72, 161-171.

越智啓太・甲斐恵利奈・喜入暁・長沼里美.（2016b）．改訂版デートバイオレンス・ハラスメント尺度の作成と分析(3) ── 恋愛行動パターンと DV との関連 ──．法政大学文学部紀要，73, 109-126.

Pfeiffer, S. M., & Wong, P. T. (1989). Multidimensional jealousy. *Journal of Social and Personal Relationships,* 6(2), 181-196.

Rubin, Z. (1973). *Liking and loving: An invitation to social psychology.* Holt, Rinehart & Winston.

田村紋女・小塩真司・田中圭介・増井啓太・Jonason, P. K（2015）．日本語版 Dark Triad Dirty Dozen（DTDD-J）作成の試み．パーソナリティ研究，24, 26-37

Multi-dimensional romantic jealousy scale and dating violence / harassment:

Development of a revised dating violence/harassment scale (4)

Keita OCHI, Satoru KIIRE and Erina KAI

Abstract

In this study, possibility of increasing date violence / harassment to who get jealous of another, when two are in a love relationship to each other, was examined. Multi-dimensional romantic jealous scale was developed on 600 participants who were in a romantic relationship with opposite sex. This scale is consist of two factors, which were jealous cognition and jealous emotion. After investigating features of these factors, correlation analysis between Multi-dimensional romantic jealous scale and date violence / harassment scale was performed. In the result, it was found that jealous cognition increased partner's date violence.